# 万博の森育成等計画　万博記念公園運営審議会緑整備部会（平成 28 年度）報告

資料９

## ■森づくりの背景

**☞将来ビジョン答申（平成 27 年 1 月）で示された「森の問題点」**

●同年齢個体からなる**過密林化**

●シイやカシなどの常緑広葉樹以外の樹種の生長が芳しくなく、**樹種の少ない林相**（単純林化）

●林床が暗く、階層構造が未形成のため、昆虫や鳥などの**生き物の種類が少ない**

●林内で若い木が育っていないため**世代交代が困難**

●孤立緑地であるため、周辺からの**種の供給が困難**

⇨ **生物多様性の向上**

－問題解決の方向として－

## ■将来ビジョン（平成27 年11 月）（抜粋）

基本方針 2：「地球環境保全・再生に貢献する公園」

（基本的な考え方）

博覧会跡地に新たにつくり出された森は、造成地に多様な自然生態系を再生するという、世界に類を見ない壮大な実験の森であり、これを適切に保全する。1970 年代の整備に着手した当初は、人の関与なしに自然の力で生育する「自立した森」を目指していたが、 経年により樹種が減少し、次世代の樹が育っていないなどの課題があるため、毎年少しずつ人の手を加えて、**長期的に生物多様性が豊か**で、多様な景観を有する**森へ転換**を図る。また、森において**自然観察など多様な活動**を行うとともに、公園で発生した剪定枝の堆肥化などの**自然資源を園内で活用**する公園運営を進める。

（取組内容）

①公園の骨格となる緑の継承維持　②豊かな森の育成

③水系の保全　④自然資源の活用への取り組み

**運営審議会への報告ポイント**

－ビジョン実現の為の基本計画－

## ■緑整備部会（平成 28 年度）

●『万博の森の育成計画』の策定についての審議

（育成計画の構成）

○育成計画の位置付け

○森の現状・課題

○育成目標と取組方策

○森の育成計画

○森の利活用計画

○ＰＤＣＡ計画・取組体制

－審議の主な観点－

**生物多様性の観点**

・多様性の向上（生物多様性を高める為の目標環境や手法など）等

**利活用の観点**

・質の向上（森づくりのﾌﾟﾛｾｽの学習、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑのﾀｰｹﾞｯﾄ拡大など）等

**【目指すべき森の将来像 】**

◆生物多様性の豊かな森

◆人と自然がふれあえる森

**【具体的な取組（例示） 】**

**◇生物多様性を高める環境づくり**

単純な樹林から多くの樹種が生育する森に転換

**◇森づくりのプロセスの学習**

苗木の育樹体験

アプリによる解説

# 万博の森育成等計画　概要版

## １．計画策定の目的

「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン」(2015 年) の実現に向けて、森づくりの目標や方針を定め、それを具体化するために、新たな森づくりのアクションプランとして「育成等計画」を策定することを目的とする。

## ２．森の育成目標と取組方策

**●目指すべき森の将来像**

◆生物多様性の豊かな森

◆人と自然がふれあえる森

**●育成目標**

**【多くの生きものを育む森づくり】**
- 北摂の気候風土に根ざした自然植生や二次植生をモデルとする。
- 様々なタイプの樹林（照葉樹林や夏緑樹林等）を育成する。
- 高木層から草本層まで立体的な階層構造を持つ樹林を育成する。
- 貴重な生きものを保全する。
- 侵略種の駆除など生きものが安定して生息・生育する環境を育成する。
- 長期的な視点で少しずつ人の手を加えながら森を育成する。

**【多様な利活用が行える森づくり】**
- 利活用の拠点機能を確保する
- 対象者の興味や知識に応じたより効果的な環境学習の場の提供を推進する
- 自然活動系レクリエーションの場の機能の充実を図る
- 新たなニーズに応じて健康増進や癒し効果の場としての機能を強化する
- 目的に応じた効果的な情報発信の展開を図る
- 多様な主体による森づくりを推進する
- 都市の自然再生等の研究の場としての活用を推進する
- 自然資源の有効活用を推進する

**●取組方策**

**【多くの生きものを育む森づくりに関する取組方策】**
- 樹木の伐採、更新、多様な樹種の導入、多様な動植物の生息・生育環境の確保など

取組例「苗木植栽による樹種の導入」

伐採・植樹　→　育樹　→　樹種が多く階層構造の樹林

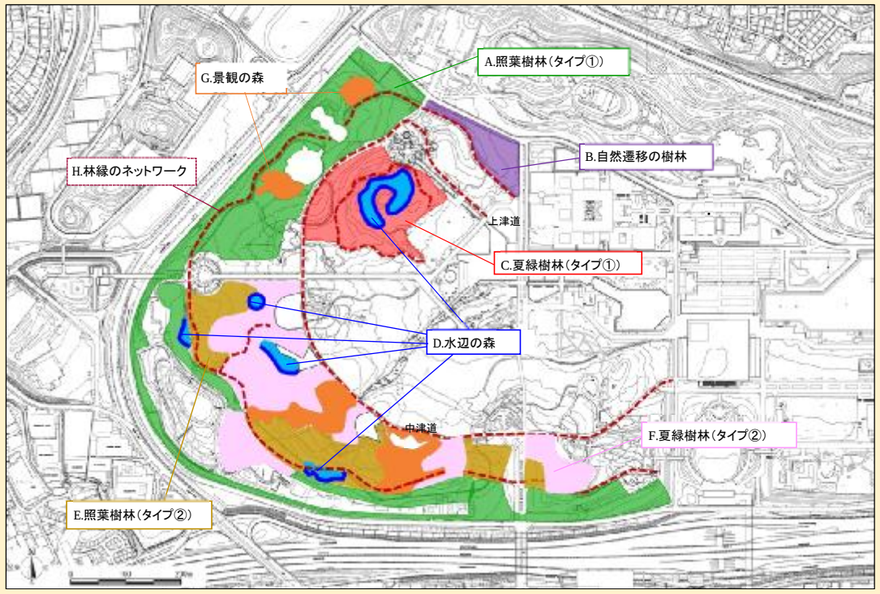
**【多様な利活用が行える森づくりに関する取組方策】**
- 環境学習等の既存プログラムの充実、新たな情報発信方法の導入など

取組例「子供向け観察会の展開」

小学生の野鳥観察会

## ３．樹林タイプの設定

●樹林タイプの設定
現在の樹林の状況等を考慮して、樹林タイプを設定する。
様々な樹林タイプを形成することにより、全体として多様な環境を確保する。




樹林タイプの配置図

●各樹林タイプについて

〇自然重視

A.照葉樹林（タイプ①）
間伐、苗木植栽等を行い階層構造の発達した照葉樹林（常緑広葉樹林）を育成していく

B.自然遷移の樹林
間伐等を実施せず、今後の遷移を見守る

C.夏緑樹林（タイプ①）
照葉樹を伐採して夏緑樹林へ転換し、階層構造の発達した夏緑樹林を育成していく

D.水辺の森
多様な環境で構成される水辺のエコトーン（水域⇒水際⇒草地⇒林縁⇒樹林）を育成していく

〇利用重視

E.照葉樹林（タイプ②）
照葉樹の高木層主体で林床が開けて多様な活動ができる樹林を育成していく

F.夏緑樹林（タイプ②）
夏緑樹の高木層主体で林床が開けて多様な活動ができる樹林を育成していく

G.景観の森
テーマにそった単一種主体の樹林を維持していく（松林、モミジ林等）

H.林縁のネットワーク
園路沿いに多様な環境で構成される林縁（林縁草地⇒林縁⇒樹林）を育成していく

## ４．森の利活用計画

### ●既存プログラムの充実・改善

【取組方針】
・これまでにも実施されてきた環境学習プログラム等について、充実と課題の改善を実施する。

【取組内容】
・小学生から興味・意識・知識の高い大人まで多様な人を対象としたプログラムの多様化
・既存の工作に加えて、大人向けの工作プログラムの開発

### ●社会のニーズにこたえる新たな利活用プログラムの導入、活用の場の拡張

【取組方針】
・社会問題や新たなニーズをとらえ、新しい多様なプログラムを実施する。
・プログラムの実施場所確保のため、活用の空間の確保に取り組む

【取組内容】
・昨今の健康ブームにより、森での健康、癒しをテーマにした森林セラピー、森林ヨガ、アロマセラピーなどイベントを行う
・今後の森づくりの取り組みに関し理解が得られるように森づくりの解説のあと間伐体験や苗木植栽体験等を実施する
・SNS・スマートフォンアプリを利用したデジタルオリエンテーリングを実施し、来園者から情報を世界に発信してもらう。
・大学及び研究機関等に調査研究の場として、企業には CSR 活動の場として利用してもらうことも検討する。

### 施設整備

【取組方針】
森の魅力を感じてもらう、また、プログラム活動の促進を図るための動線整備など

【取組内容】
・間伐材を使ったチップ舗装散策園路
・森づくりを解説する看板等の整備
・間伐材を使ったベンチ

### ●新たな情報発信方法の導入

**情報発信**
【取組方針】
森の価値を知ってもらい、様々な活動の促進を図るため情報発信方法を検討
【取組内容】
・来園者に分かりやすい解説版表示や AR・QR を利用したｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞへの多言語化対応
・研究機関への PR による学術的利用の促進及び成果の学会等への発表促進

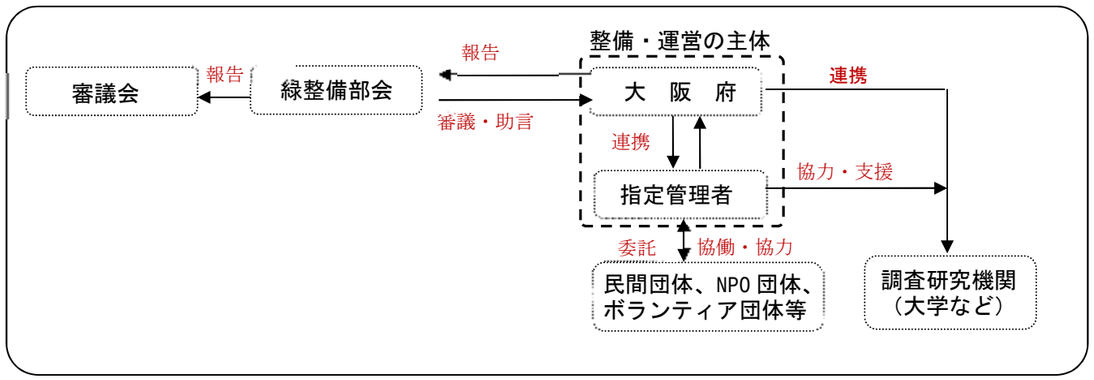
## ５．PDCA 計画、取組体制

### ●PDCA 計画

森づくりや利活用について、目標に確実に近づけるように取組内容について、調査を行い、結果に基づき取組の見直しを行い、管理手法について常に順応に対応できるようにする。

| | 森づくり | 利活用 |
|---|---|---|
| PLAN(計画) | ・樹林伐採後のモニタリング計画、自然文化園内全域の生物モニタリング計画を検討、立案 | ・試行的活動として、数案のプログラムを検討（企業・大学の協力を得て、斬新なプログラム企画も検討可能） |
| DO(実行) | ・モニタリング計画に基づき、施業及び調査を実施 | ・提案・立案したプログラムを実施 |
| CHECK(評価) | ・調査結果をもとに、森づくりの施業の効果を検証<br>・検証結果をもとに、緑整備部会を開催し、検証結果について意見を伺う | ・参加者に対する満足度アンケートを実施し、プログラムの評価を実施<br>・検証結果をもとに、緑整備部会を開催し、検証結果について意見を伺う |
| ACTION(改善) | ・検証結果や緑整備部会等の意見を踏まえ、森づくりの施業方法の見直しや、モニタリング計画の見直し等を実施 | ・プログラムの評価をもとに改善し、年間プログラムによる継続した実施の検討を実施 |

PDCA サイクルの方策（案）

### ●取組体制

＜今後の運営体制＞